読書に親しみ，自ら学びとる児童の育成をめざした図書館教育の実践

学校教育目標具現化の一環としての図書館教育活動

足利市立柳原小学校図書館教育主任　植竹　圭子
〃　　図書館事務職員　森山　宮子

1. はじめに

創立８１周年を迎えた柳原小学校は，幾多の輝かしい伝統を継承し，それを基底として創意を生かし意欲を持って教育実践に取り組む気風の醸成に努めて来ている。本校の学校図書館教育の実践も，その古き良き伝統を継承しながら，生涯教育の立場に立った「足利市の教育目標」を踏まえた学校教育目標の具現化を図るため，学校としての努力点，具体策を受けて取り組んでいる教育活動である。

2 学校教育目標具現化の一環としての学校図書館教育活動

本校の教育目標は，「自ら考え，正しく判断ができ，知性と感性のバランスのよくとれた人間性豊かな児童の育成を図る。」ことを掲げ，具体的には，次の五つの児童像の具現化をめざしている。

1. よく考える
2. ひとの気持ちがよくわかる
3. よいことを進んでする
4. よく運動する
5. よく働く

柳原小の学校図書館教育は，これらの目標を踏まえた教育実践活動の一環として，他の領域との関連や協力を図りながら実践に努めている。

本年度の学校教育目標具現化のための努力点と図書館教育に関する努力事項との係わりは，次の様である。

- ゆとりある充実した学校運営の推進 ──→
  - ・施設・設備と教材・教具の整備と活用
  - ・学習の場に即した図書館利用の推進
  - ・地域の教育力を生かした教育活動の実践
- わかる・できるようになる授業，自ら学び取る力を育てる授業の実践 ──→
  - ・学習指導法の工夫，改善と形成的評価の工夫
  - ・教科・領域の効果的な経営活動の充実
- 魅力ある特別活動の実践 ──→ ・自発的・自治的な児童会活動（図書委員会）の充実

3. 柳原小学校図書館の概要

(1) 独立図書館以来の伝統的な図書館活動

本校は，明治35年以来，伝統的に本に親しみ，読書活動を大切にして来た学校である。終戦後間もない昭和27年に，創立50周年記念事業として，本の好きな柳原の子に立派な図書館

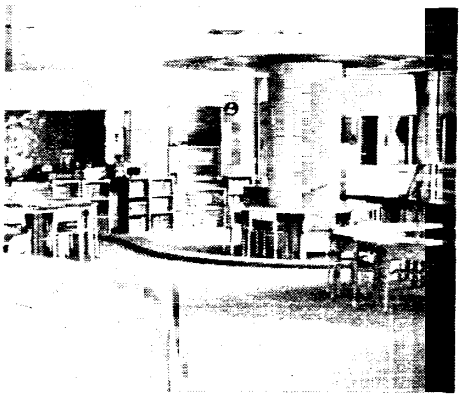
を建ててあげようと，児童愛護会・同窓会・町内自治会・その他の大勢の関係者たちが，莫大な経費の捻出に奔走され，当時・県下に例のないすばらしい独立図書館が設立された。

職員や児童の「図書館がほしい。」という熱望を受けて，多くの方々の努力の末に設立された独立図書館は，戦後7年目の子ども達や職員に大きな希望と夢を与え，読書に対する興味・関心や本を大切にする態度は，この頃からすでに柳原小の子どもたちの良き伝統となって今に受け継がれて来ているものである。

昭和29年には，図書館教育の実践校として研究発表会が開かれ，図書館の外観や内装の斬新さのみならず，指導内容の充実していることや先進性が参観者から絶賛を受けた。これは柳原の子のためにと，図書館教育にかける地域の人々の熱い願いと図書館教育に携わって来た数多くの職員の並々ならぬ努力と工夫の賜ものであった。

昭和52年には，新校舎が落成し，独立図書館は，緑のジュータン敷の曲線の美しいフロアーとやわらかい円柱。それを取り囲む円卓やベンチ。明るく静かで，ユニークな開放式の「図書ラウンジ」として生まれ変わり，合わせて，資料センター・サンフロアー・学習ラウンジなどの施設を有する柳原小図書館となった。

図書ラウンジ



図書ラウンジでの読書の

○ 図書館の施設と面積	
○図書ラウンジ	195㎡
○書庫	30㎡
○資料センター	117㎡
○サンフロアー	75㎡
○学習ラウンジ	86㎡

昭和53年度から，自ら学び取る態度の育成をめざし，学習の場・資料提供の場として学校図書館が活用できるように，情報センター・資料センターとしての機能を有する学校図書館の運営に努めて来た。こうした歩みを経て，昭和57年には，図書館教育に携わる地味な努力が認められ，思いがけず「学研教育賞」の栄誉にまで輝き，新たに「学研図書コーナー」が設けられて，柳原の児童の読書に対する関心は，いやが上にも高まり，現在に至っている。

(2) 柳原小図書館運営の基本的な考え方・基本方針

○運営の基本的な考え方

学校図書館は教育課程の展開に欠くことのできない心臓部として，広く学習全般の立場から計画的に資料を収集，更新・自作保存などをして機能的な学校図書館の運営を行いメディアセンターとして児童職員の利用に供し教育課程の展開に寄与するものでなければならない。

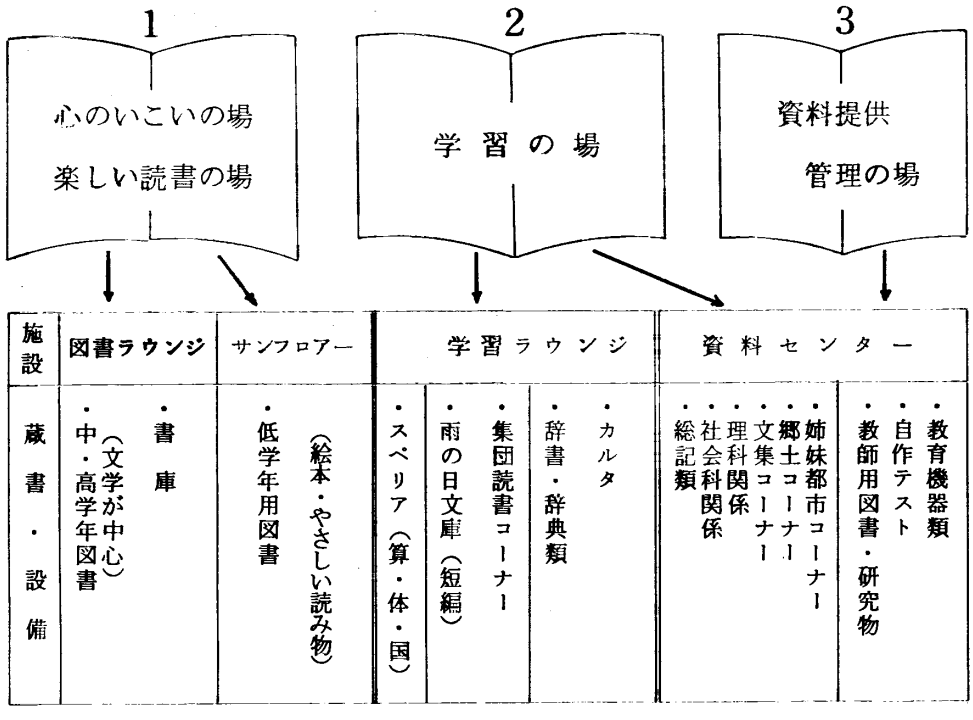
○運営の基本方針

・学校図書館をメディアセンターとして有効に活用させるため，全職員がこれに協力する。

・図書館を学習の場，心のいこいの場，楽しみの場とする。

・図書館を教師・児童のよりどころとする。

これらの基本的な考え方や方針を受けて，教育目標の努力点である，ゆとりある充実した学校運営の推進の具現化を図るため，柳原小の有する施設・設備を有効に生かしながら，児童の発達段階を考慮して学習の場に即した図書館利用の推進を大きな三つの柱を基に実践にあたっている。



(3) 図書館の蔵書と配架

本校の図書館の蔵書数は，約１２,５００冊である。蔵書の分類・配架については，日本十進分類（ＮＤＣ）を用い，ラベルは低学年でも分かり易いように，記号入カラーラベルを利

用している。配架は，子ども達が興味を引くように，また，利用しやすいように目的に応じた配架を工夫し分散配分している。書架も市販のものばかりでなく，円形の書架やカラーボックス等もどんどん取り入れて，本を取りやすいように，また，やわらかい雰囲気が出るように考慮している。

柳原小図書館蔵書配分比率

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
総記	哲学・宗教	歴史 地理	社会科学	自然科学	工業・工学	産業	芸術	語学	文学
黒ラベル	青ラベル	燈ラベル	水色ラベル	茶ラベル	黄ラベル	灰色ラベル	緑ラベル	赤紫ラベル	赤ラベル
10%	2.5%	15%	10%	20%	5%	4%	4%	5%	24.5%

(4) 魅力ある図書館づくり，環境づくり

子ども達にとって，学校図書館が魅力のある場所であることが，図書館を活用する一つの大きなポイントになって来ると思う。そこで，本校では，魅力ある図書館づくりを目ざして活用の目的に応じて，コーナーや文庫を設けたり，掲示物による広報活動をしたり，また，魅力ある蔵書を心掛けて，多方面からの選書の工夫や配架の工夫をして，学校図書館が子ども達にとって魅力のある場所である様，必要な場所である様な環境づくりに努めている。

○柳原小の文庫

・ふれあい文庫（ふれあい広場チャリティバザールの収益金を柳原地区体育協会より寄贈されて新設された文庫　昭和５８年１０月に開設された。）

・けやき文庫（特殊学級けやきクラスとの交流による文庫）

・興国文庫（興国化学株式会社より寄贈された資金による文庫。昭和４９年設立）

・学研文庫（学研教育賞授賞による記念文庫。昭和５７年１１月に開設された。）

図書委員会の児童
新設された学研文庫と

○コーナー

・新刊コーナー（新着本を紹介する）

・文集コーナー（文集「足利の子」や文集「やなぎわら」などの文集を集めてある。）

・郷土資料コーナー（わたしたちの町・足利市の本や資料）

・姉妹都市コーナー（姉妹都市鎌倉市に関する本や資料）

・集団読書・雨の日文庫コーナー（短編）

○広報活動と掲示物

・毎月ごとの図書館カレンダーの作成と掲示

・掲示板による新着本の紹介・行事のお知らせ

・校内放送による貸出率・返却率のお知らせ

○魅力ある蔵書の購入

・購入希望アンケートによる選書（教科主任・学習指導主任・児童からの希望を取る。）
資料センター用の図書は，グループ学習に対応できる様に8冊位づつ複本で購入する。

・基本図書目録による選書

・全国図書館協議会選定図書による選書

・巡回図書（書店が現物を展示）による選書

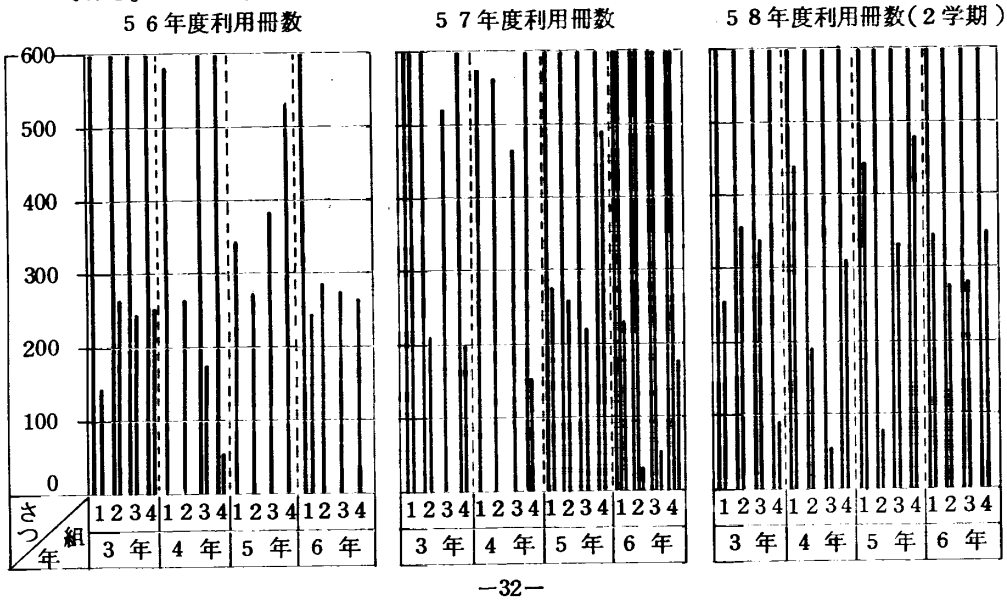
・栃木県推薦図書による選書

・新聞・館報・速報による選書

4. 自ら学び取る態度を養てるための学校図書館の運営

(1) 心のいこいの場，楽しい読書活動の場としての読書活動

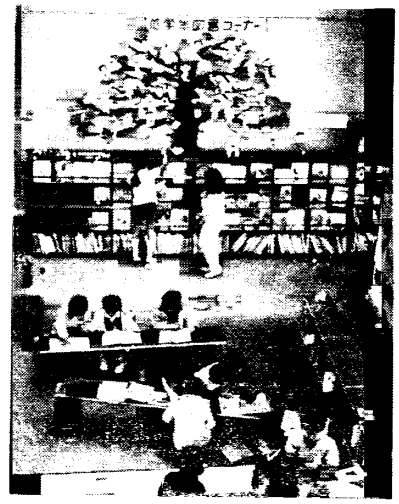
本校では，読書指導の目標を読書を愛好する心と良い読書態度を育て，これを一生の習慣として生活を豊かなものにしていくことに置いている。本校の児童は，読書好きの子が多く，良く読書する子が多い。これは，長い伝統として根強く現在の柳原にも流れて来ているものである。グラフは，昭和56，57，58年（2学期）の年間図書利用率を表わしたものである。



５７年は５６年の３倍近い伸びを示している。５８年度は２学期末ですでに５７年度の利用率に達している。これら利用率の伸びは，学校長をはじめ全職員が読書指導に力を入れて来た事。係職員や図書委員会の児童を中心に児童ひとりひとりの読書活動を評価し，意欲づけ，興味づけを図る工夫をして来たことが，自ら読書に学び取る態度の素地を養って来ている様である。

５７年の「学研教育賞」の受賞を契機に読書に対する関心はいやが上にも高まって来ているが，学級・学年・学校全体としての読書活動を目に見える形で評価して来たことも利用率の伸びの一因であると思う。

低学年からの本に親しむ態度を育てる読書活動は中高学年の読書活動へ向けての素地を養う大切な活動である。低学年図書コーナー（サンフロアー）は低学年教室の廊下続きの空間で，低学年向きの本がすぐ手に取って読める様にオープン書架やカラーボックスに並べられている。子ども達は，休み時間や暇があるとその場に腰掛けたり，座り込んだりして本を見ている。一日に数冊読む子も多く「おもしろそうだな。」「読んでみようかな。」という気持ちを起こさせて，好きな時に好きなだけ本を読める環境作りをして，興味づけ，意欲づけを図り，低学年から，本に親しむ態度を養っている。



低学年図書コーナー

(2) 貸出しと返却の活動

各学年の全クラス共，毎週一時間が図書の時間として位置づけられている。どのクラスもこの図書の時間を楽しみにしている。1，２年生は，自由な時に貸出し返却を行なっている。

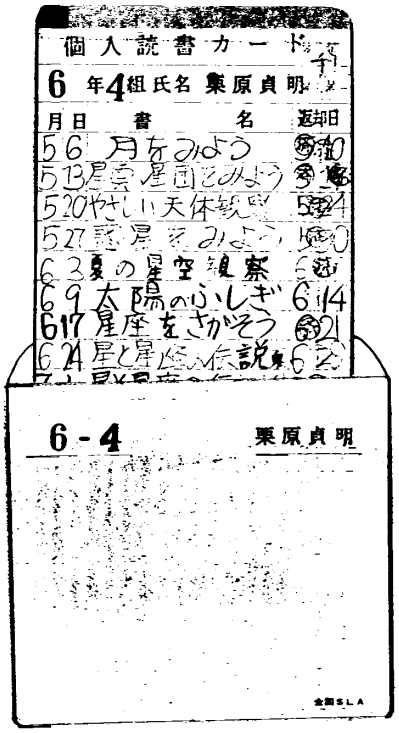
３年生以上は，学年別に色分けされた「個人読書カード」で本の貸出しや返却がなされている。原則的には，１人１冊で，金曜日が貸出し日で返却は火曜日となっている。貸出しや返却の時は，中高学年別に時間帯を設けて混雑を避けている。学年別に色分けされた個人読書カードは，貸出しや返却の様子が一目で分かり整理しやすい。

学年クラス別の貸出・返却ボックスが，カウンターに置かれて，委員会の児童を中心に貸出し返却・統計の仕事が行なわれている。

貸出日の児童の様子と
図書委員会の活動

この個人カードにより，児童ひとりひとりの様子が把握でき，読書の足跡として，又，認め励ますための評価の大切な資料として児童理解に役立てることが出来る。読書への意欲づけや興味を継続させるのにも良い方法である様だ。

昨年度までは，学年の終りに個人カードから読んだ本の内容を調べてセクション別に優秀者を選び，賞を出して認め励ましとしていた。子ども達は，読書の王様，女王様に選ばれることを大変楽しみにしているが数が大変多いので，本年度から一枚目のカードが終った時点で賞を渡すことにした。子供達はこれで自分の読書の傾向を知ることができる。読書を一生の習慣として生活を豊かなものにしていく態度を少しずつ養っている。

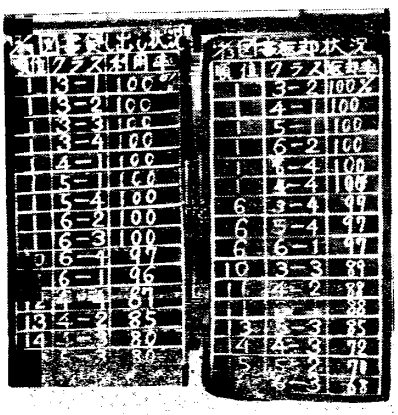


個人カードの賞

- 文学賞
- 歴史賞
- 科学賞
- スポーツ・研究賞

個人カードの色

3年…ピンク	4年…グリーン
5年…ゴールド	6年…ブルー



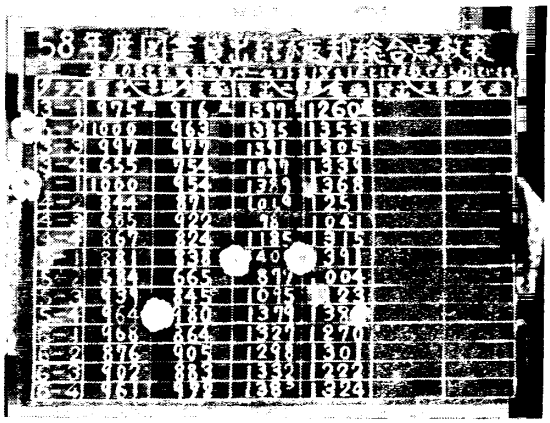
(3) 貸出し・返却に関する評価活動

毎週金曜日には，係や図書委員会の児童や係の先生方を中心に本の貸出し作業が行われ，放課後には，その週の貸出状況ベスト10の統計を出している。返却状況についても統計を出してベスト10を図書ラウンジのカウンターに掲示したり(写真)昼の放送の図書館だよりの中で知らせるなどの広報活動を行ない，学年・学級の読書に対する意識を高めるように努めている。これら毎週の利用率の結果は，前ページの年間利用率のグラフになって表われるので，子供達は自分のクラスの利用率や返却率に対して強い関心を示すようになって来ている。

５８年度は，毎週の貸出状況・返却状況から，二学期末までの様子を総合点数表に作成し，各クラスの読書活動を具体的に数値で評価してみた。これは，図書館事務職員の工夫で１％を１点として点数で表わしたものである。

この表より，貸出しの状況や返却の状況を一目で握め，各クラスの読書活動の様子も把握でき図書館活動や運営の大切な資料となっている。１学期に比べて２学期は，貸出率・返却率共に大変良くなって来ていることがうかがえる。又，返却が確実に出来る傾向が強く本の紛失等はほとんどない現状である。

（総合点数表）



各クラスの貸出率や返却率については，毎週の統計ノート控えで知ることは出来るが，貸りた本を児童が本当に読んでくれたかどうか，何か得るものがあったかどうかを把握することは，なかなか困難な事である。そこで，本年度は貸りた本を本当に読んでもらって読書の質を高めるために，読書ノートの指導に力を入れてみた。

(4) 図書館の諸行事と自発的自治的な図書委員会活動

① 夏休み図書館開館と委員会活動

夏休みは，子ども達にとってまとまって本を読める良い機会である。読書に親しみ進んで読書をする習慣をつけさせるために，柳原小図書館は，夏休み中もほとんど毎日午前中開館し図書館活動を続けている。朝の涼しいうちに勉強を兼ねて読書をと，ほとんど毎日来ている子やプールの待ち時間を有効に読書にあてている子と様々である。一日平均百人の児童が図書館を利用している。夏休み中は，「夏休み自由読書カード」で読んだ本について簡単な感想を書かせると共に読書の傾向の把握の資料として選書の時に役立てている。読書ノートにもくわしく記録させている。秋の読書感想文コンクールの感想文を書く子も多いので「課題図書コーナー」を特設し，複本で配架し利用に供している。資料センターの利用も多く，夏休み自由研究の調べ物や理科や社会の研究に取り組む子どもの姿も見られ，自ら学び取る態度の育成に資料センターは大いに活用されている。二学期の始めには夏休み中の図書館利用の優秀者の名前を掲示し，ささやかな賞状・賞品を用意し，励ましとしている。

これら夏休み中の開館活動は，５・６年生の図書委員会の児童が自発的・自主的な当番活動で仕事にあたっている。輪番制にはなっているが，中には自発的に毎日仕事に当たってくれている子もいる。図書館に来る大勢の子の世話をしたり，本の整理・修理，清掃，机イスの整頓スリッパの整美・読書カードの整理，利用数の統計，本の受け入れ作業等，

雑多な莫大な仕事を自発的・自主的に取り組んでいる図書委員は，柳原小図書館運営の大きな原動力であり，学校目標の努力点である魅力ある特別活動の実践の具現化の一つの表われでもある。

② 秋の読書週間と校内読書感想文コンクール

今まで読んだ本の中や夏休み中に読んだ本の中から感想文を書いて応募してもらい，校内読書感想文コンクールを開催している。読書ノートの活用と合わせて，感想文を進んで書かせるように努めている。各学年の図書館指導部の先生方を中心に審査がなされ，校内の入選者を設定している。入選作は，全員の児童に読んでもらい参考としてもらうために掲示板に掲示して啓蒙を図っている。

読書週間ノートコンクール

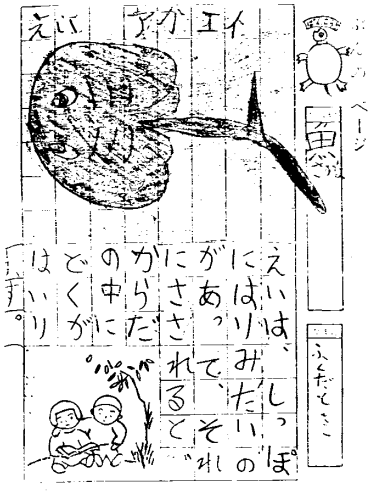
読書週間中には，例年，学校長が全校朝礼の時に，読書週間にちなんで，人間形成にとって読書の大切なことや読書の楽しさなどの話を全員に分かるように話してくれている。併せて，読書感想文コンクールの入選作品を自ら読み聞かせてくれている。

子ども達にとっては，今年はどんな話だろうかと待っており，感想文の朗読と話は読書週間中の大きなはげましであり，喜びでもある。

これらの諸行事は，読書活動に対する大きな刺激となっている。

(5) 読書の質を高めるための読書ノートコンクール

図書の貸出率は，ここ数年大変伸びているが，借りた本をどの子も実際に読んでくれたかを把握しにくく，評価しずらい問題点である。そこで，本年度は，読書の質を高める事をねらいとして，自分の読書の記録を必ず書かせるように全職員の共通理解で実施して来た。



秋の読書週間にちなみ，第1回読書ノートコンクールを開いた。各クラスから読書ノートを良く書いている優秀者が選ばれ，学校図書館指導部よりささやかな賞状が用意された。入選者を集めて，昼休みに図書ラウンジで表彰式が行われ，校長先生から賞状が手渡された。子ども達は，大変うれしそうであったし，感想を書く大切さを意識して来たようである。

(6) 学習の場・資料提供の場としての資料センター・学習ラウンジ

本校の学校図書館は，楽しい読書活動の場・心のいこいの場としての機能ばかりでなく，児童の自ら学ぶ態度の育成と学習の場に即した学校図書館の推進をめざして，広く学習全般の立場から児童や職員に資料を提供し，学習に図書を役立てて行くための資料センターとしての機能を有するものと考えている。

資料センターには，主に社会・理科・総記・国語の作文関係の本やパンフレット類が置かれている。中・高学年になると，自分の問題やテーマをここで自分で資料を選択し，自分で調べ解決する活動を通して自ら学び取る喜びや態度を育てている。

社会科では，歴史や地理の学習で分からないことや更に詳しく調べたり，課題を解決したりする学習で活用する場合が多い。理科においても同様な目的で活用している。

地域の持つ教育力を学校教育に生かすために，センター内には「わたしたちの町足利市」のコーナーがあり，足利の古い歴史や文化に関する本や足利の伝統の本，現在の足利市の文化・産業行政に関する本やパンフレット・写真・OHPシート類が集められている。また，郷土コーナーには，栃木県に関する資料もいく分置かれている。足利市と姉妹都市である，「鎌倉市のコーナー」が設けられ，六年生の修学旅行の時の資料として使われ，鎌倉市に対する正しい理解と友好を深める場としている。これらは，社会や国語の郷土についての学習に役立つ資料提供の場であり学習の場としての図書館である。生涯教育の一環として，郷土に対する正しい理解と郷土を愛する心・郷土に対する関心を深める教育の場として活用されることを願い，整備に努めている。

国語科における資料センターの役割も大きく，「文集コーナー」には，文集「足利の子」や大正１１年の創立以来続いている文集「やなぎわら」がずらりと揃えてある。「文は鏡だ。心を照らす鏡だ。」の精神を今も学校目標の「よく考える子」に生かして文に綴って来た作文集のコーナーであり，これらを作文学習の参考資料として活用している。

また，説明文や総合学習の資料提供の場ともなっている。文学教材の学習後には，その発展として作者の他の作品を読めるように，教科書に出てくる作者の他の作品を多く集めて，集団読書コーナーが設けられている。

雨の日や休み時間などの短時間で読み終えるよう１冊１０分程度の短編ばかり集めた「雨の日文庫」もある。

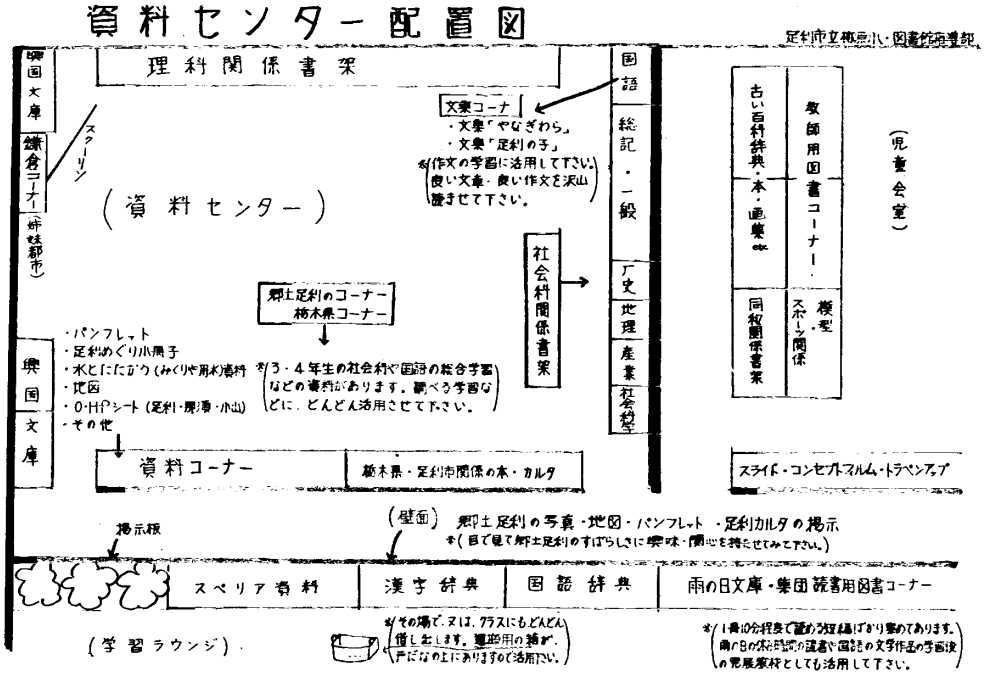
国語の学習における辞書の活用は，自ら学ぶ力や態度を養う大事な学習である。資料センターに隣接した学習ラウンジには辞書コーナーがありクラス単位や個人に貸出している。

シンクロやスペリアの設備は主に算数や体育の自主学習で利用している。放課後や各単元の学習で必要に応じて，児童が自由に使用している。

教師用図書コーナーは，指導資料や研究紀要・図書・自作テスト類が置かれていて，それらの収集や管理に努めている。教育機器等は必要に応じて職員の利用に供している。

従って，資料センターや学習ラウンジは，柳原小の教育課程の展開に欠くことの出来ない場所となって来ている。

柳原小学校資料センター及び学習ラウンジ配置図



6. おわりに

本校の学校図書館は，古き良き伝統を継承しながら，生涯教育の立場を踏まえ，学校教育目標の具現化を図る一つの試みである。学校図書館教育の仕事に携わる者にとって，「読書の好きな柳原の子」という校風を持つ子どもたちの存在は，何にも替え難い強みであり，励みでもある。恵まれた環境と，「学研教育賞」の授賞を契機に，読書に対する興味や関心はいやが上にも高まって来ている現在であるが，ひとりひとりの子どもたちに，本当に読書の喜びを味わわせるまでに至っていないことを痛感している。今まで試みて来た実践活動を，図書館運営の基本的な考え方や基本方針とよく照らし合わせて反省・改善して行くことが，より良い柳原小学校図書館の内容の充実につながって来ることと思う。

今後の課題として，施設・設備の内容の充実をさらに図ると共に，児童ひとりひとりに応じた読書活動の実践の工夫に取り組む事があげられる。

評

学校図書館は，学校図書館法において，学校の教育活動の全般を資料の面から支えるものとし，これを児童の利用に供することによって，児童の健全な教養を育成する・・・とあります。つまり，学校図書館は資料センターとしての体制を整えるとともに，その機能としては，各教科等の指導の効果を高め，併せて児童の読書活動を推進させることにより，児童に望ましい人間形成に寄与することが期待されています。

柳原小学校の図書館教育は，この方向に沿い，学校の教育活動における重要な営みとしてとらえ，特色ある推進に努めている様子がうかがえます。

その特色の第一は，図書館教育を学校教育目標具現化の一環としてとらえ，自ら学び取る子の育成は，自ら読書する子からも迫るとおさえていることであります。

第二は，学校図書館をメディアセンターとしての使命と役割を十分発揮できるようにするため，各種資料の収集・保存・更新に全教職員が一致協力して当たり，機能する図書館づくりとその運営に努めていることであります。

第三は，楽しい読書活動ができるように，学校図書館をゆとりあるスペースと特色ある配備を工夫したり，児童の身近かにサブ図書館を設置し読書活動への誘いをしたりしていることです。

第四に，読書週間等の各種行事において，読書への啓発活動をしたり，表彰を通して認め励ましたりなど，きめ細かい工夫をしていることです。

以上のような本校の取り組みは，児童に読書生活の基礎を養うことであって，生涯教育としての自己教育力を養う上で極めて大切なことであります。今後は，この実践のますますの充実・発展と地域への先導的役割を期待いたします。